

業種・食品種類	その他	売上規模	10億円未満
効率化工程	生産工程		
効率化	人材育成		

粉末食品製造業	岐阜県
---------	-----

機械化が困難な製造ラインにおいて、従業員の多能工化、従業員発信の改善活動により生産性向上を推進

■ 従業員の状況

従業員数		従業員の部門別構成比		
正社員・契約社員	パート・アルバイト	製造部門	間接部門	その他
18名	13名	70.0%	15.0%	15.0%

■ 生産関連の状況

生産量／稼働時間	生産量	工場稼働時間
	非公表	5時間／日

コスト構造 構成比	原材料費	人件費	減価償却費	その他
	約30%	非公表	非公表	非公表

製造工程における 設備・機械対応比率	製造工程 [原材料投入から製品完成まで]		設備・機械対応比率
	うち、設備・機械対応		
	7	6	85.7%

設備・機械担当人数	設備・機械担当者計 [メンテを含む]	設備・機械メンテ 担当者	機械・設備導入・ 整備選任	その他
	担当			
現状	- 人	- 人	- 人	- 人
5年前	- 人	- 人	- 人	- 人

※ 機械設備の専門担当者は配置しておらず、一部設備の保守サービス、トラブル発生時の対応は外部に依頼。

！生産性向上におけるPoint

- ✓ 従業員の多能工化を進め、従業員の変動や製造量の変動へ柔軟に対応
- ✓ 従業員からの提案をもとにしたワークフロー・作業計画の最適化を実施し、生産性向上を推進

製造効率の課題や製造コスト高騰、人材育成の遅れなどの課題解決に向けた取組を開始

同社は粉末食品の製造を行っており、製品形態は袋詰めから瓶詰め品まで多岐にわたる。また、製品の季節性やトレンドが影響し、製造量に大きな変動が生じる。また、製造工程の一部で機械を導入しているものの、完全自動化には工場の拡張と相応の設備投資が必要であり、現状では多くの製造工程を人手で対応している。

製造効率の悪さに加え、製造コストの高騰、人材育成の遅れといった課題も抱えていた。これらの課題解決のため、2023年～2024年にかけて、①従業員の多能工化による柔軟な人員配置、②従業員の意見を反映した生産性向上への取組を進めた。

従業員の多能工化、従業員からの提案による作業改善・作業計画の最適化により生産性向上を推進

①従業員の多能工化による柔軟な人員配置に関しては、特定業務に人を固定せず、多様な業務に対応できる多能工化を進めることで、休暇取得や退職などによる従業員の変動や、製造量の変動にも対処できる柔軟な人員配置が可能になった。人材育成と技術継承に力を入れ、従業員一人ひとりの技術向上と業務の標準化を進めている。

② 従業員の意見を反映した生産性向上への取組に関しては、従来、各現場で個別に行われていた会議を変更し、各現場の責任者を対象としたリーダー会議を定期的で開催し、意見交換の場を設けた。また、グループを意図的に組み替え、食事会などを実施するなど、人的交流を深める取組を行った。この結果、リーダー会議の場において、参加者が率直に意見を発言するようになった。会議で提案があったワークフローや人員配置の見直し・作業計画の最適化を行うことで、生産性の向上に一定の成果が見られた。現状、具体的な数値による評価は行っていないが、今後、生産性向上への寄与度を含めた詳細な分析・検証を行うこととしている。